

わかこゝろ

菅江真澄著。「わかこゝろ」は「わが心慰めかねつ更級や姨捨山に照る月を見て」で、この紀行文は姥捨山観月の文。文中の「飯形やま」は「いなりやま（稻荷山）」。

天明三年（一七八三年）葉月（八月）十六日の項、

飯形やまといふ村をへて、鹽崎といふやかたに、よねたはら
おふ男あまた身にあせしてゆきかふに、弓のことくおし曲た
る篠を、國の名にはへいちことて、うしにつかねつけて行は、
戸隠山よりとり來れるさゝ竹なれば、大雪にふして、かくな
んまかれりとか。此うしひきも、よねおひ集ひたる子らも、
あないきくるし、水ひとつとて、やの門にこひのみぬ。

註 国立国会図書館デジタルコレクションで「秋田叢書

別集 第㇋（菅江真澄集 第㇋）」（DOI

10. 11501/1174008) 226 コマ目。 「新編 信濃史料

叢書 第10巻」にもあり。